

四十三万滝

四十三万滝は、菊池溪谷の長い遊歩道の中で、ビジターセンターに戻る前の最後の主要な滝である。大小さまざまな滝が連なり、1日に流れる平均水量が43万石（7万8千トン）であることから、この名がついたとされる。

川には突起している岩があり、滝の中まで歩いて入ることができるが、滑らないように注意が必要だ。四十三万滝付近の山肌には、冷涼な気候を好むモミヤカヤ（*Torreya nucifera*）などの針葉樹が生育しており、暖かい溪谷の下流部にはないものである。